

## がん対策を支えるがん登録

令和6年6月14日、第33回学術集会（島根）において、学術委員会企画シンポジウム「がん対策を支えるがん登録②～第4期がん対策推進計画へのがん登録の活用」の座長を学術集会事務局の中林理事とともに担当しました。

数年ぶりの現地開催となった第32回学術集会（青森）で復活した「学術委員会企画シンポジウム」は、第21回（高知）から第26回（愛媛）までの学術集会で毎回設けられていました。令和3年に私が学術委員会委員長を引き継いだ際、学術集会では開催地の特色を持たせる一方、継続性を考慮したセッションを設けることがJACRとしては望ましいと申し送られていました。

各都道府県の第4期がん対策推進計画が始まる今年度、学術委員会テーマと演者を選定し、最初に学術集会開催県である島根県健康福祉部健康推進課がん対策推進室の山崎室長、続いて森島先生（大阪国際がんセンターがん対策センター）、増田先生（琉球大学病院がんセンター；録画）、大木先生（埼玉県立大学健康開発学科）、そして座長でもある中林先生の計5名に発表

MIYASHIRO Isao

宮代 勲

大阪国際がんセンター がん対策センター  
JACR 副理事長・学術委員会委員長

いただきました。当日、事前に聞いていた内容から逸れたような発表もあったので、総合討論での議論をふまえてもっと事前調整しておくべきだったと反省しています。なお、今回の企画に合わせて中林先生が行ったアンケートについて、2025年春発刊予定のJACRモノグラフでも報告できればと準備を進めています。

学術委員会企画シンポジウム「がん対策を支えるがん登録」では、これまでの2回、行政担当者にとっても関心があるテーマを取り扱っています。来年、第35回（愛知）での学術委員会企画シンポジウム「がん対策を支えるがん登録③」にもご期待ください。



## 第33回学術集会

### ちょっとスピリチュアルなこぼれ話

第33回学術集会は島根県出雲市で開催されましたが、同市には日本でも最古級の古社の一つである出雲大社があります。出雲大社は国譲りを求められた大国主命（おおくにぬしのみこと）に代償として与えられた大空にそびえる神殿と比定されており、以前から参拝したい神社でした。私は六月十三日午前に出雲空港に到着し、バスでまっすぐ出雲大社に向かいました。

出雲大社のように下り坂の参道は全国でも珍しく、七百メートル以上と長いのも特徴的です。そして、参道の左右には枝社（えだやしろ）と呼ばれる主祭神・大国主命以外のさまざまな神を祀った神社が点在し、厳かな雰囲気です。私は参道の最初にある枝社が瀬織津姫命（せおりつひめのみこと）を祀る祓社だったのに気がついて、とても嬉しくなりました。

瀬織津姫命は祓い浄めの神で、私の故郷・岩手県稗貫郡大迫町にある早池峰神社が主祭神として祀っています。早池峰神社は西暦八〇二年建立の古社で、柳田國男の遠

MATSUZAKA Masashi

松坂 方士

弘前大学 / JACR 理事



野物語にも登場し、地域の崇敬を集めています。また、本地垂迹説（日本の神は日本人に分かりやすいように仏が姿を変えたものだという神仏習合の根拠思想）によると瀬織津姫命の本地（神に姿を変える前のもとの仏）は十一面観音で、大迫町の古老は今でも早池峰神社の本尊は十一面観音だと言っています。

私が大学に入学して弘前市に住み始めた時、アパートのすぐ近くに市内でも有名な十一面観音を祀るお堂がありました。それを知った時、私は早池峰神社の分社が近くにあるような気がして、なんだか心強く思ったものです。

出雲大社の長い参道の最初の枝社で瀬織津姫命を参拝し、大学生の時の十一面観音堂を思い出し、私は夕方の学会場に向かいました。

理事会後に田村研治先生（学術集会長）が素晴らしいフレンチレストランにご案内くださったのは、おそらくそのご利益だったと思います。